

令和 6 年 6 月 12 日現在

機関番号：16201

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2021～2023

課題番号：21K20212

研究課題名（和文）政治的主体化した市民の育成を目指す初等社会科カリキュラム開発研究

研究課題名（英文）Curriculum development research aimed at fostering politically-informed citizens in elementary social studies

研究代表者

神野 幸隆（KAMINO, YUKITAYUKITAKA）

香川大学・教育学部・准教授

研究者番号：40911318

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、政治的主体化した市民の育成を目指す社会科カリキュラムの開発を行うことを目的とし、社会科導入期である初等社会科に焦点を当てた政治学習のカリキュラム開発が特色である。そのために、政治的主体化した市民の系統的な育成に向け、初等社会科においては、どのような学習目標や学習過程を設定したり、政治経済的な価値や社会正義の対立を内在させた社会的論争問題を内容（教材）として採用したりするべきか、という問いに答える研究を遂行する。そして、授業実践と検証を踏まえ、初等社会科政治学習の実証的かつ系統的なカリキュラムを提案する。

研究成果の学術的意義や社会的意義

18歳選挙制度および高等学校公民系教科において新教科「公共」が開始された昨今、高等学校の前段階である初等・中等教育社会科からの系統的な政治的主体化した学習者の育成は重要であると考えている。そのため、実社会の社会的論争問題や政治問題を扱う際にはどのようなカリキュラム編成を行い、どのような教育内容や目標を設定するべきかを明らかにすることは社会的な意義をもつ。従来、判断力育成に関する授業過程や学習方法の研究は進められてきた。また内容研究も高等学校社会系教科を中心に進められてきておらず、初等社会科において推進された本研究は学術的な意義を有する。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study is to develop a social studies curriculum aimed at fostering politically-activated citizens, and features curriculum development of political learning focused on elementary social studies, the introductory stage of social studies. For this purpose, we will conduct research to clarify what kind of learning objectives and processes should be set in elementary social studies for the systematic development of politically-oriented citizens, and what kind of content (teaching materials) should be adopted for social controversial issues that have political and economic values and social justice conflicts inherent in them. Based on classroom practice and verification, we propose an empirical and systematic curriculum for elementary social studies political learning.

研究分野：初等社会科

キーワード：社会科教育 政治教育 持続可能な社会の形成者 主権者教育 政治的主体化した市民

様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

1. 研究開始当初の背景

18歳投票制度の開始に伴った主権者教育が注目されるなかで、社会的論争問題を多面的かつ多角的な見方や考え方をを用いて議論したり、模擬議会や模擬選挙を経験したりしながら、政治や社会問題の解決に主体的に関わろうとする市民の育成が目指されている。これまでも、上記のような市民の育成のためには、社会科導入期である初等社会科からの系統的な育成の重要性が指摘されてきた。しかし、実際には実社会の社会的論争を積極的に取り上げ議論する学習は、初等社会科ではほとんど実施されていない。その原因は、政治的中立性への過度な配慮や誤解も挙げられるが、実際にはどのような学習目標を設定し、こういった社会的論争問題を教育内容として提示するべきか、どのような学習過程を設定し、学習方法を採用したらよいか、その際どのような社会的事象の見方・考え方を働かせて選択や判断をするのか、どのような価値を取り上げ学習をまとめていくのか、といったことが十分には明らかにされていないことが原因としてあげられる。

本研究において、政治的主体化した市民の育成を目指す初等社会科政治学習のカリキュラム開発を行うことで、政治学習の授業改善に資することができ、しいては民主的な社会を目指す社会形成者の育成につなげていくことができる。

2. 研究の目的

本研究は、政治的主体化した市民の育成を目指す社会科カリキュラムの開発を行うことを目的とし、特に社会科導入期である初等社会科に焦点を当て、授業実践およびその検証を通じた実証的な初等社会科政治学習のカリキュラム開発を行うことを目的とする。

現代の民主主義は細分化されて語られるようになり、各論に相違が生じている。よって、授業者が支持する民主主義論により社会科授業(とりわけ政治学習)の目標および育成すべき市民的資質にも相違が生じている。そのため本研究では、現代民主主義各論について、求められる市民的資質と社会科学習の関係性について比較・再検討し、政治的主体化した市民の育成を目指す初等社会科授業の目標設定の参考とする。本研究において、教育目標の設定に際しては、現代民主主義論である C.ムフラが唱える「闘技民主主義論」における正当性である「対立」および対立を生む社会の「多様性(多元性)」に着目し、政治的主体化した市民の育成を目指す初等社会科の目標を「社会の多様性の理解」及び「政治的自我の認知」として設定することが独自性として挙げられる。

【政治的主体化した市民育成を目指す初等社会科授業における教育目標】

社会の多様性や多様な争点の存在に気がつき、自己と他者では異なる政治・経済的価値を有しているために対立が生じることを理解する。

他者との対立的関係性を通じて、自己の政治的自我(=自らの政治的役割についての見解を含む、政治に対する態度や感情や信条、アイデンティティなどの個人的な志向性)を認知する。

加えて、教育内容として取り上げる社会的論争問題の設定においては、他者との差異や対立を生み出す根底にある「社会正義論」の対立に着目していくことも独自性といえる。

3. 研究の方法

開発した教育内容で実践を行い、実証的改善を図り、体系的な教育内容を示すことであ

る。研究を進める中で開発した学習指導案は、授業実践を通じて、その効果を検証していく。PDCA サイクルを用いて、政治的主体化した市民の育成を目指す初等社会科のカリキュラム開発を目指していく。本研究では理論研究・開発研究に届まることなく、実際に授業を踏まえた実証的な検証を行い、カリキュラムの妥当性を高めていく。研究の末では、政治的主体化した市民の育成を目指す初等社会科のカリキュラム試案を提案する。

4．研究成果

政治的主体化した市民育成の授業構成では選択や判断する場面が重要である。21世紀に登場している新しい考え方では、多様性・ジェンダー・有限（希少）性・国際化・気候変動と脱炭素・資源エネルギー・人口減少社会・AI など科学技術の進歩・都市の集中と過疎地域の様々な問題・想定外が起こる日常・コミュニティ（共助）であり、重要なのは「私自身の参加」と「統合的な解決アプローチ」であると研究が進むにつれて明らかになってきた。

研究の進捗報告では、3年間もコロナ禍が続いたため、授業実践を学校現場を訪問して実施することが難しかったため、1年間延長せざるをえなかった。期間中に招待を受けたシンポジスト3回、他の発表を2回実施した。論文は1本が中国四国教育学会誌に掲載された。月刊雑誌は4本が掲載された。学生を巻き込んだアクションとしては、持続可能な社会における市民の育成を目指す団体「Team SDGs」を大学内で設立した。全学共通科目においては持続可能な社会をテーマに探究学習を進める科目を2つ担当した。期間中に開発・実践したものとして以下の5本がある。小5 持続可能な水産業 北太平洋サンマ会議 小4 小豆島の虫追い祭りを有料化して観光客の参加（附属坂出小の先生との共同研究） 小6 バングラデシュでの国際貢献に取り組む水事業者（附属坂出小の先生との共同研究） 小6 歴史 鎌倉時代 小3 世田谷区の都心の農業、農地の多面的機能である。今後、上記の授業を論文化して各種社会系の学会に投稿をしていく。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計11件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 神野幸隆	4. 巻 28
2. 論文標題 持続可能な社会を創る政治的主体者の育成をめざす社会科授業」	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 『教育学ジャーナル』中国四国教育学会, (査読有り) (招待有り)	6. 最初と最後の頁 , pp.93-98,
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 神野幸隆	4. 巻 3月号
2. 論文標題 「副操縦士・壁打ち相手としての効果的なAI活用」	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 , 『社会科教育』明治図書出版	6. 最初と最後の頁 pp.4-9.
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 神野幸隆	4. 巻 1月号
2. 論文標題 「常識を疑うこと・善意のリツイート危険性」	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 『社会科教育』明治図書出版	6. 最初と最後の頁 pp.28-29.
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 神野幸隆	4. 巻 vol.5,10月12日号
2. 論文標題 「ランドセルが落ちている教室から垣間見えること」	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 学びのチカラe-na (小学校版) 教育出版	6. 最初と最後の頁 p28
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 北林,雅洋, 小方朋子, 杉野本勇氣, 佐藤明宏, 神野幸隆, 吉澤樹理, 米村耕平	4. 巻 第47号
2. 論文標題 「初等授業研究の成果と教員養成の課題」	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 『香川大学教育実践総合研究』	6. 最初と最後の頁 pp65-78.
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 神野幸隆	4. 巻 第306回
2. 論文標題 「わが県の情報 ここにこの授業あり 香川県の巻」	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 『社会科教育』明治図書出版	6. 最初と最後の頁 pp.126-127.
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 神野幸隆	4. 巻 第28号
2. 論文標題 持続可能な社会を創る政治的主体者の育成をめざす社会科授業	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 教育学ジャーナル, 中国四国教育学会	6. 最初と最後の頁 pp93 98
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 神野幸隆	4. 巻 4月号
2. 論文標題 社会的排除と包摂に関する授業実践	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 社会科教育2022年	6. 最初と最後の頁 pp.122 125.
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 神野幸隆	4. 巻 6月号
2. 論文標題 授業DXで実現する個別最適な学び×探究	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 社会科教育2022年	6. 最初と最後の頁 pp.4 9.
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 神野幸隆	4. 巻 2月号
2. 論文標題 問題解決的な学習の充実とセットで考えよう	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 社会科教育2022年	6. 最初と最後の頁 pp18 21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 神野幸隆	4. 巻 2月号1030
2. 論文標題 政治的主体化した市民を育成する社会科授業	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 初等教育資料2023年	6. 最初と最後の頁 pp68 - 71
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計9件（うち招待講演 4件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 神野幸隆
2. 発表標題 「概念探究学習の「ふりかえり場面」における精緻化方略に関する研究 「抽象化」と「類推」思考を促がす「問いかけ」の効果」
3. 学会等名 第8回初等教育カリキュラム学会大会(自由研究発表)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 神野幸隆
2. 発表標題 「生成系AIが問い直す「学び」・「授業」」
3. 学会等名 第8回初等教育カリキュラム学会大会(ポスター発表)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 神野幸隆
2. 発表標題 「概念と社会情動的スキル獲得に関する目標と評価に関する研究 - 附属三原小学校第4学年のふりかえり記述をもとに 」
3. 学会等名 第32回日本生活科・総合的学習教育学会神奈川大会(自由研究発表)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 神野幸隆
2. 発表標題 持続可能な社会を創る政治的主体者の育成をめざす社会科授業
3. 学会等名 中国四国教育学会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 神野幸隆
2. 発表標題 立憲主義に着目した小学校社会科学級憲法づくりの実践
3. 学会等名 日本公民教育学会研究プロジェクト
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 神野幸隆
2. 発表標題 世界と比べた日本の若者の主権者意識の特質と改善策
3. 学会等名 明るい選挙推進協議会委員研修会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 神野幸隆
2. 発表標題 小学校社会科における「社会的包摂と排除」に関する授業実践研究 - 「社会的弱者の包摂」・「知らぬ間包摂」・「多数決の排除」に着目して-
3. 学会等名 全国社会科教育学会第 70 回 全国研究大会シンポジウム, 2021年10月23日, (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 神野幸隆
2. 発表標題 教育実践・研究における「成果」を改めて考える
3. 学会等名 初等教育カリキュラム学会第 6 回大会シンポジウム, 2022年01月09日, (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 神野幸隆
2. 発表標題 「社会への主体的な関わりを促す授業構成」
3. 学会等名 日本社会科教育学会第71回全国研究大会福島大会2021年11月28日
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 松岡靖, 新谷和幸, 福田喜彦, 神野幸隆, 大野木俊文, 服部太他社会科の理念と授業を考える会	4. 発行年 2023年
2. 出版社 風間書房	5. 総ページ数 322
3. 書名 子どもの心理と教育内容の論理を結びつけた社会科授業	

1. 著者名 木村博一・神野幸隆	4. 発行年 2022年
2. 出版社 『365日の全授業』DX(デジタルトランスフォーメーション)	5. 総ページ数 -
3. 書名 明治図書	

1. 著者名 伊藤裕康編著	4. 発行年 2021年
2. 出版社 学術図書出版社	5. 総ページ数 -
3. 書名 『社会科教育のリバイバルへの途』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------